

第 36 回東日本ラグビーフットボール大会・スクールの部

1 s t ステージ ゲームレポート

10月16日(日)青森市マエダアリーナの朝は雲一つない気持ち良く晴れ渡る天気となった。朝食をすませ、宿泊所出発前のジャージ式。ファーストジャージを選手一人ひとりに手渡すと、チームの感情が高まる中に極度の緊張がうかがえた。北海道スクール選抜の試合開始は、前日の抽選により第2試合からとなる。



第1試合は北東北スクール選抜と岩手県スクール選抜の試合となった。

岩手県スクール選抜は試合開始2分、コントロールされたキックで相手インゴール手前までエリアを獲るとラインアウトからドライビングモールで先制トライを決めた。岩手県選抜はこの3年間1stステージを1位通過しているチームである。この大きな壁を越える為、北海道選抜はアップ会場へ移動した。



第2試合は北海道スクール選抜と岩手県スクール選抜の試合となった。

北海道選抜のキックオフで開始すると猛烈なプレッシャーで相手ノックオン、このセットスクラムからブラインドサイドへBKのムーブそしてFW、BKが一体となりフェイズを重ねゴール手前まで攻めるが、最後はノットリリースの反則でチャンスを生かすことができない。試合が動いたのは7分過ぎ、岩手選抜がキックで陣地を獲得し、北海道はゴールを背負ってのディフェンスが続いた。そして相手スクラムからSHが持ち出しWTBへとつながれトライを奪われてしまう。しかし終了間際のワンプレーで相手陣22mスクラムからフェイズを重

ね最後はF Bがディフェンスラインのギャップをついて裏に出ると相手F Bをスピードで抜き去り左中間にトライ。5-5の同点とする。時計は18分をまわっていた。

後半に入り互いに22mエリアまで攻め込むがハンドリングエラーや、反則により得点を奪えず、チャンスをものにできないでいたが、6分過ぎブレイクダウンをターンオーバーされると又もキックで大きくエリアを獲られ、最後はドライブングモールにトライを許してしまう。その後9分北海道の攻撃はプレッシャーを受けゲイラインを越えられないフェイズが続いたが、ここでもF Bがステップで相手ディフェンスを切り裂きトライを奪い再び同点に追いつく。

そして11分キックオフのボールをLOが大きくゲインするとSOからの裏へのキック、このボールを相手WTBがキャッチしキック、これをSOがカウンターアタックし相手DFをパスダミーでかわし右中間へトライ、ゴールも成功し17-10と初めてリードする。

しかしこの直後、自陣10mでフェイズを重ねるが岩手選抜の攻撃的なディフェンスに下げられ、エリアを奪いに行ったキックが相手FBのカウンター、そしてインゴール手前に絶妙なキックで自陣インゴールにグランディンするのが精一杯であった。

そして5mスクラムを与えてしまいSHが持ち出しそのままトライ。

ゴールも決まり17-17の同点で試合終了。



第3試合は北東北スクール選抜との試合。第1試合の結果が55-0で岩手選抜が勝利していることで、この1stステージを1位通過する為に得失点差を56点以上で勝利することが絶対条件となった。選手達にはプレッシャーは無かった。今のチームのすべての強みを出し切り縦横無人にボールを動かしてトライの山を築いた。そしてノーサイド 84-0 1stステージ4年ぶりの1位通過が決定した。

11月5、6日に千葉で行われる2ndステージではカップセミファイナルリーグBへ進み、新潟県スクール選抜と東京都スクール選抜の対戦が決定しています。ここでの接戦を制するには、タフなメンタルと冷静な判断力が要求される。この3週間でさらにレベルアップし北海道代表チームのテーマである全員が一丸となって戦う『ONE TEAM』で存在感を発揮し、2011年東京都スクール選抜を破って以来の全国ジュニアを目指します。

北海道スクール選抜 ヘッドコーチ
畠中 学